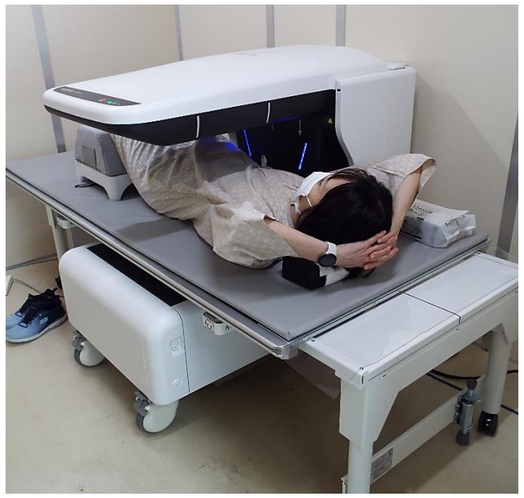
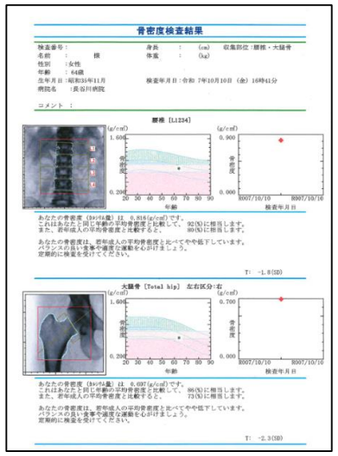
2025 10月 October

医療法人社団 誠和会

はせだより 広報

新たに「骨粗鬆症外来」が始まります





▲検査結果見本

◆完全予約制
◆第2.4.5金曜日
（午前中のみ）

10/31より
予約開始

骨粗鬆症とは・・・？

骨粗鬆症とは、骨の強度が低下し、骨折しやすくなる病気です。
特に、ご高齢の方の骨粗鬆症は、転んだときに足の付け根や背骨などの大きな骨が骨折しやすくなり、寝たきり生活につながりやすいことから大きな社会問題となっています。

◆学会推奨の骨密度検査が、当院で受けられます！

骨粗鬆症外来を始めるにあたり、骨密度検査を行うための機器が新しく導入されました。

骨密度を測定する検査方法は様々な種類があります。超音波を用いたり、手の骨密度を測定する方法などがありますが、当院では腰部や大腿骨頚部を撮影するDEXA法（デキサ法）で検査を行います。

DEXA法とは、身体の骨塩量（骨の強度、ミネラル）を2種類のX線で骨の成分と骨以外の組織を区別して密度を算出する方法です。

この方法は、骨量の変化が捉えやすい腰椎や大腿骨頚部を測定するため、精度が高く、治療効果が出やすいことから「日本骨粗鬆症学会」で推奨されています。

日本には骨粗鬆症を患っている人が1000万人以上おり、その数は年々増加傾向にあります。

しかし、自覚症状が現れにくく、進行してから気づくというケースも少なくありません。定期的に検査を行うことで早期に発見し、適切な予防や治療を行うことができます。まずは、かかりつけ医にご相談ください。

医療機器研修会が実施されました

◆ぬいぐるみを使った訓練で、理解を深めました

デイケアセンターにて、看護部を中心とした「医療機器研修会」が実施されました。今回は家庭用腹膜透析「むきんイージー」の取り扱いについて、テルモ株式会社さまよりご説明いただきました。

腹膜透析とは、お腹の中にある腹膜機能を利用して血液をろ過する方法です。お腹の中と外をつなぐ専用の管から透析液を注入し、一定時間入れたままにすると、腹膜の細い血管を介して、老廃物や余分な水分・塩分が透析液へ移動し、新しいものと交換することで血液が浄化されるという仕組みです。

実際に機器をぬいぐるみに取り付けて訓練を行い、質疑応答を行ったことでより理解を深めることができました。

今後も、患者さまの安心と安全のために向上心を持って取り組んでまいります。

◆紅葉の名前の由来についてご紹介します！

秋といえば、美しい紅葉の季節。夏に青々としていた木々が黄色や赤に彩られる様は、思わず息を呑んでしまいますよね。ということで、今回はそんな「紅葉」の名前に関するお話をご紹介します。

皆さんは紅葉と聞いて、どんな葉が思い浮かびますか？ おそらく、多くの人がカエデの葉を思い浮かべたのではないでしょうか。そんな「カエデ」の由来は、葉の形が蛙の手に似ていることから「蛙手（かえるて）」が訛ったものと言われています。一般的によく見られる「イロハカエデ」というカエデは、7つに分かれている葉が「イロハニホヘト」と数えられることに由来しており、このイロハカエデの紅葉が特に美しいことから、いつしか「モミジ」の代名詞として親しまれるようになりました。そして「イチョウ」も葉の形が鴨の脚に似ていることから中国名の「鴨脚（ヤーチャオ）」が訛り、現在の名前になったそうです。（事務員R）

入院・転院のご相談

＜空所情報＞10/14現在
回復期病棟（6床） 療養病棟（0床）
ホームページで確認できます

医療法人社団誠和会長谷川病院
■地域連携部（MSW）：渡邊、山本、安部
TEL：043（444）0137
FAX：043（444）0257
HP:http://www.hphasegawa.or.jp/wp/